

報告

昭和五十七年度大会の概況 日本思想史学会昭和五十七年度大会は、十月三十日(土)・十月三十一日(日)・十一月一日(月)の三日間にわたり、東北大学文学部を主会場として開催された。
第一日は「明治の思想」と題する主題発表と総会が行なわれた。主題発表の発表者及び司会は次の諸氏である。

発表者

司会

総会は四時一〇分から行なわれ、事務局から五十六年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて事務局より五十七年度事業計画案および予算案が提出され、審議の結果、それぞれ事務局案通り決定された。

総会終了後 ホテル白萩において懇親会が催された。

大会第二日は研究発表が行なわれた。午前と午後、それぞれ二会場に分かれて行なわれたが、発表者は次の諸氏である。

- | | | |
|--|------------------------|---------|
| 1、中江藤樹『論語郷党啓蒙翼伝』の方法
——近世初期に於ける朱子学への提疑の一類型—— | 東北大学大学院 | 荻生茂博 |
| 2、徂徠における「鬼神」 | 大阪大学大学院 | 中久村春正 |
| 3、農政と心学——陶山訥庵研究序説—— | 長崎大学講師 | 佐久間春正 |
| 4、本居宣長の「上古封建」論をめぐって | 東北大学大学院 | 高橋直古 |
| 5、『金光明最勝王経』の受容
——『統日本紀』神護景雲三年十月一日条の場合—— | ノートルダム清心女子大学講師 | 八重樫直古 |
| 6、紫式部の「憂き身」意識 | 東北大学大学院 | 佐藤勢紀 |
| 7、親鸞のいわゆる如来等同志について | 東北大学大学院 | 市川浩史 |
| 8、家行と慈遍の天地開闢観 | 東洋女子短大講師 | 山田隆信 |
| 9、秋成の人物像の問題——『春雨物語』をめぐって—— | 安藤昌益の身体の問題 | 和田耕進 |
| 10、安藤昌益の身体の問題 | 皆川淇園の経世論——『淇園答要』を中心に—— | 大塚孝 |
| 11、維新変革における政治主体のエートス序説——横井小楠を中心に—— | 明治、大正期における「自助論」の受容過程 | 岩手大学助教授 |
| 12、明治、大正期における「自助論」の受容過程 | 「絶対矛盾的自己同一」の一考察 | 京都大学助手 |
| 13、明治、大正期における「自助論」の受容過程 | | |
| 14、大会第三日は、上山・米沢方面への見学旅行が行なわれた。 | | |

筑波大学教授	芳賀登
東海大学助教授	原島正
愛知教育大学助教授	渡辺和靖
防衛大学校教授	春日佑
筑波大学助教授	奈良博順